

全中での悔しさを、次への原動力に

■ 1月22日(木)から群馬県渋川市で開催された「第46回全国中学校アイスホッケー大会」に、本校3年生1名が岩手県選抜チームの副将として出場しました。東北大会に続いての全国大会出場となります。大会には、全国各ブロックの予選を勝ち抜いた16チームが出場し、東北ブロックからは、東北大会で競い合った岩手県選抜を含む5チームが出場しました。

○ 岩手県選抜チームは、初戦で関東の強豪・栃木県代表の日光東中IHCと対戦し、4対5の接戦の末、惜しくも敗れました。生徒は、今大会でもディフェンダーとしてゴールを守るだけでなく、状況に応じて攻撃にも参加するなど、持ち味を発揮し、チームに大いに貢献しました。

○ 昨年続き2年連続で全国大会に出場した本校生徒は、今大会でもディフェンダーとしてゴールを守るだけでなく、状況に応じて攻撃にも参加するなど、持ち味を発揮し、チームに大いに貢献しました。

○ 3月末には北海道釧路市で開催される全国大会への出場も予定されており、さらなる活躍が期待されます。

□生徒の感想から

■最後の全中アイスホッケー大会だったので、しっかりやり切ろうと思って臨みましたが、自分としては動きが良くない場面も多く、チームメイトに迷惑をかけてしまいました。次に北海道で行われる全日本大会に向けて、自分の足りないところをしっかりと練習し、ベスト4以上を目指して、さらに全力で頑張りたいと思います。応援よろしくお願いします。

